

1. 実践研究テーマ

一人一台のタブレットを活用した「主体的・対話的な深い学び」を実現させるための授業実践

2. 取組の内容（協力校等との連携等を含む）

- 自分の考えをもち、適切な言葉で表現できる子どもを目指して、タブレットを使用し友達と考えを共有しながら意欲的に学習できるような単元の構成を考えた。
- 児童が自分の考えを相手に伝える必要性を感じるような話題や学習の展開を研究した。

- **1年生国語科「いちおしずかんをつくろう」の取組**

児童それぞれが、今一番好きなものや友達に紹介したいものをタブレットで紹介する活動を通して、意欲的に説明をしたり文章を書いたりすることができた。



- **3年生総合的な学習の時間**

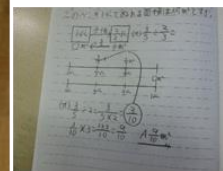
「チーム吉井小3年生！オリジナルダンスをつくろう！」の取組

1月にある学習発表会で自分たちが作ったダンスを披露することを目標に、7名の児童が一丸となり試行錯誤しながら取り組んだ。



- **6年生算数科「分数÷分数」の取組**

一人一人の思考の過程を効率よくみんなで共有し、全体で比較・検討する学習に生かすことができたようになった。



3. 取組の成果

○ 教職員の変容

- 児童が意欲的に活動するための効果的なタブレットの使い方を考え、実践することができた。
- 日常的にタブレットを使用する習慣が身に付き、一人一人の思考の過程を効率よくみんなで共有し、全体で比較・検討する学習に生かすことができたようになった。
- 資料や写真等を目的に応じて適切に提示することで、言葉だけでは十分に伝えられないことを視覚的にイメージさせることができ、自分の伝えたいことが正確に伝わるとともに学習内容の理解につなげることができた。

○ 児童生徒の変容

- 自分の意見をもち、相手に伝える活動をすることで、その後の「書く」活動がスムーズになってきた。友達のことを聞いたり自分の考えを伝えたりすることで、ある程度書く内容が整理され、書きやすくなっていると考えられる。
- 子ども同士の対話を活性化させることで、友達とともに考えを出し合いながら活動することに慣れてきた。語彙が少なく表現力が十分でない児童もいるが、少人数であるため一人一人の意見が大切にされる傾向がある。貴重な一人の意見をみんなで聞くという態度が育ってきている。